

各校での非認知能力を育む実践！ 学習発表会を通じた実践！ 磯長小編



No. 6

磯長小学校では3年ぶりに2学期、3学期の参観で、それぞれ3学年が体育館で学習発表を行います。2学期に学習発表をする学年は2・3・5年生です。全学年のトップを切って11月15日（火）に5年生が学習発表会の参観を行いました。発表内容は古文・詩・英語の群読や合唱・合奏です。発表形式の取組はコロナ以前から自己有用感を高める絶好の行事として取り組んでいました。**今年度はさらに、非認知能力の育成という意識で取り組みました。**

子どもたちにとって体育館という教室より大きな所で発表をすることはとても緊張することです。しかし、日頃みんなの前で大きな声を出すのが苦手な児童も、みんなと一緒に練習を重ねるとどんどん大きな声になり、練習も一生懸命取り組むようになります。みんなが同じ目的に取り組むことの一体感がそれぞれの頑張りを生み出すよさがあります。



自分を高める系



目標を持つ力
(夢・目標を持つ)

挑む力
(やってみる・挑戦)

つながる系



伝える力 (気持ち・意見を)

受け入れる力 (相手を)
協働する力

5年生の実践



素晴らしい取り組みですね！
人への感謝は、他者の思いに
共感することから始まります。
まさに非認知能力のたまもの
ですね。

徳留宏紀さん (太子町非認知能力アドバイザー)

昨年度まで大阪府公立中学校勤務。今年度からは岡山大学大学院で非認知能力について研究。

今回の5年生は発表の練習を始める前に、それぞれ何を伝えたいのかを考えさせることをしました。多くの子どもたちが「感謝」という言葉をあげました。

続いて「感謝」を伝える発表とはどういうものかを考えるように伝えると、子どもたちは練習で声の大きさだけでなく、きびきびした動作や姿勢のよさなどを自分たちで気をつけるようになりました。

一つのクラスでは発表前に今の気持ちを書いてもらいました。内容は不安な気持ちを持っていたり、わくわくした気持ちを持っていたり様々でしたが、緊張感を持っており、自分のことを見つめることができていました。当日の発表はこちらが思っているより、群読も合唱も合奏も素晴らしいものを保護者の方に見てもらうことができました。また、発表後に保護者からの感想をもらうことで、自分たちの頑張りは、人を感動させ、喜んでもらえるものになることを更に実感できたと思います。子どもたちがそれぞれ保護者の方に「感謝」を伝えることができたと思います。